

2004.1.24

日本気球連盟理事長殿

日本気球連盟スポーツ委員長
阪田茂男

スポーツ委員会に関する細則第2章 2-5 に基づき、下記の小委員会を設置します。

1. プロジェクト名

熱気球大会ガイドライン検討小委員会(スポーツ委員長直轄)

2. プロジェクトの目的

国内で開催される熱気球大会の安全に関するガイドラインの設定。

a) 対象とする大会

国内で開催されるすべての熱気球大会で、規模、競技実施の有無、目的を問わない。

b) 予定する成果

遵守を求めるもの、勧告レベルのもの、参考レベルのものなどを文書化して、スポーツ委員会に提言する。

3. 小委員会の概要

a) この小委員会は、スポーツ委員長の直轄とする。

報告は、スポーツ委員会に対して行われる。

a) リーダー

角田 正

メンバー

山下 晃司、宇佐見 圭二

安全委員会担当メンバー

スポーツ委員会担当メンバー

b) 期間 2004.1 月から 2005 年 12 月の 24 ヶ月とする。

c) 予算 交通費、外部委託費 年間計 35 万円

4. 検討すべき内容

- ・ プロジェクトのアウトプットとして、大会、競技設定等のガイドラインを作製する。
- ・ 選手権レベルの大会だけではなく、ローカル大会に対する内容も、安全面での検討をする。
- ・ 下記のような分類を元にそれぞれのガイドラインを検討する。

* 公認もしくは非公認

- * 競技会もしくは非競技会
- * 選手権競技会もしくはローカルな大会
- * アドベンチャー主体の大会
- * 遵守を求めるもの、勧告するもの、参考程度のもの

5. 具体的検討テーマ

(1) 大会一般に関する一般的なガイドライン。

- ・ 損害賠償の対象に気球連盟、大会主催者、セーフティーオフィサーが含まれる可能性がある。
気球連盟から任命されたセーフティーオフィサー等の役員に対して損害賠償責任に対するの保険を検討する必要があるかもしれない。
- ・ 安全確保は競技管理者の第一義的な責任でやるべき。
- ・ 気象の問題
安全な地上風速、タービュランスなどについてのアドバイス
最大風速、平均風速などのアドバイス
連盟安全規定への提言
降雨レーダーの監視などインターネット活用の提言
- ・ ポケベル
- ・ プロパン
- ・ オフィシャルバルーンの扱い

(2) 競技会を対象としたガイドライン

- ・ ポケベルの活用
- ・ タスク設定
- ・ JDGの危険性
- ・ 球皮同士の衝突、接触の扱い
- ・ 衝突防止策
- ・ 急降下急上昇の速度制限の検討
- ・ 計測中の安全確保
- ・ ターゲットでの交通整理。
- ・ マーカー投下と安全対策
- ・ 地上クルーによる安全確保。
- ・ GPSロガーの取り付けの義務化の検討。PZ監視。
- ・ PDG、FONは交差点の安全確保。および、安全な交差点のリストアップ。
- ・ オブザーバーのウエア、反射板、誘導灯
- ・ 車両安全規則の徹底。停車位置、駐車位置、運手速度、民家に対する配慮。

- ・ 一般の交通の往来の妨げにならないように。
 - ・ 離着陸のケア。民家に対する配慮。民家からの距離。
 - ・ タスクごとの設定マニュアル。
 - 例)ヘアハンドハウンドのヘア気球のパイロットの選定、ゴールの選定等。
 - ・ 初心者マークの有効性は
- (3) アドベンチャーフライトを元にした大会のガイドライン
- ・ 気象
 - ・ NOTAM。
 - ・ 上空での連絡体制
- (4) セーフティーオフィサー
- ・ 現状では日本選手権のみ配置が求められている。
 - ・ 日本版セーフティーハンドブックの作成。
 - ・ セーフティーオフィサーのための研修制度。
 - ・ 任命制度の検討
 - ・ 責任の範囲を明確にする。
- (5) ローンチマスターの件
- ・ ローンチマスターの権限と役割を解説したガイドラインの制定
- (6) 気象データ
- ・ 気象情報、天気概況、予報の提供が必要。
 - ・ 気象サイトの紹介も有効。
- (7) その他
- ・ ローンチサイト周辺の最低高度を設定
 - ・ 大会後の反省会の記録の収集
 - ・ インシデント事例の報告
 - ・ 同乗オブザーバーの安全確保
 - ・ オブザーバーだけでなく、パイロット、オフィシャルのジャケットの色等の工夫
 - ・ 大会に関係する保険の解説、ガイドラインの検討。

(以上)